

リニア問題チームが静岡で調査

残土置き場に不安

党国会議員団のリニア中央新幹線問題プロジェクトチームの辰巳孝太郎参院議員は24日、静岡県山間部(南アルプス)に入り、リニアの残土置き場などがつくられる玄関口に当たる静岡市葵区井川地区で井川自治会連合会の栗下浩信会長らと懇談しました。

穀田恵二、佐々木憲昭、井上哲士、市田忠義の各議員秘書や、もり大介党県議予定候補、党地方議員、地元住民運動家らが同行しました。

JR東海は県内の工事から出る残土置き場を大井川の河原中心に設定しています。そのうちの二つに燕沢(つばくろさわ)があります。栗



通行止め地点の地図で現地の説明をする林克県評議長(左端)と辰巳氏(右端)ら。25日、静岡市葵区

「命の問題です。大変な危機感をもちいる」

リニアで減水 毎秒2トン

調査団一行は26日、島田市と静岡市で、市長や副市長ら担当者と懇談しました。

辰巳孝太郎参院議員、佐々木憲昭衆院議員と、穀田恵二、井上哲士、市田忠義の各議員秘書、もり大介県議予定候補と両市の党市議らが参加しました。

JR東海は静岡市北部の南アルプスにトンネルを掘り、リニアを通す予定です。そのため大井川水系の水が毎秒2トン減ると想定しています。この量は島田市を含む下流7市の水道利用量(毎秒約1・39トン(2012年))を超えます。

「命の問題です。大変な危機感を持っている。大井川の水は絶対に戻してほしい」。島田市の染谷

下氏は「一番捨ててほしくない所」と指摘しました。静岡新聞によると、JR東海はここに残土を高さ50メートル、延長1キロにわたって置く予定だとしています。燕沢は両側から土砂が崩れてできた扇状地です。「土砂崩れでもあれば、川をせき止めることになり大変」と栗下氏は訴えました。

さらに、狭い山道に大型車が入ることや、700人ほどの作業員の宿舍の防災、治安への不安も口にしました。懇談の中では「具体的な情報をJRが出さないのではどうなるのかわからない」と繰り返し住民が訴えました。辰巳氏は「無謀な計画がよりはっきりした。国会に声を届け、ただしていきたい」と約束しました。

絹代市長は声を強めました。すでに関連施設予定地を視察した染谷氏。現場を見ての疑問にもまともに答えないJRに不満です。「どうやって水を戻すのか聞きたい。説明ないままの着工は認められない」と訴えました。

辰巳氏は「まず工法を示させないようにしたい。共産党は認可させないよう頑張る」と表明。佐々木氏は「国会で批判する議員を増やすよう奮闘する」と応えました。

静岡市では山本克也副市長らが応対。山本氏は「環境破壊の懸念をJRに伝えてきたが、それを払拭するだけの回答がない。納得するまで着工は認められない」と主張しました。佐々木、辰巳両氏は「厳しい声を上げていきましょう」と激励しました。

